

## 令和7年度 第1回 四街道市立図書館協議会会議録

日 時	令和7年11月14日（金） 午後1時30分～午後3時
場 所	四街道市立図書館3階 会議室
出席委員	米元委員、坂本委員、浅沼委員、川又委員、大和久委員、大塚委員、 重田委員、日野委員、富樫委員
欠席委員	蛭川委員
事務局	田島課長、齋藤館長、成瀬係長、小野主任司書、森田司書
傍聴人	なし

### 【会議次第】

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 社会教育課長挨拶
4. 委員紹介
5. 会長・副会長選出
6. 会議の公開等
  - 1) 会議の公開
  - 2) 議事録の作成
  - 3) 名簿の公表
7. 議題
  - 1) 図書館協議会委員及び図書館職員体制
  - 2) 令和7年度図書館利用者アンケート結果
  - 3) 令和7年度図書館サービスの進捗状況
8. 閉会

### 【会議経過】

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 社会教育課長挨拶
4. 委員紹介
- 5-1. 会長・副会長選出
  - ・会長に日野委員を選出
  - ・副会長に米元委員を選出
- 5-2. 会長挨拶
6. 会議の公開・議事録の作成・議事録署名人について
  - ・会議は公開とし、議事録の作成のため会議の録音、発信は要点筆記とする。議事録は押印廃止に伴い署名を求めないこととなったため、発言者に議事録を確認してもらうこととする。

## 7. 議題

- (日野会長) 図書館協議会委員及び図書館職員体制について、事務局よりご説明をお願いします。
- (事務局) ～図書館協議会委員及び図書館職員体制について説明～
- (日野会長) 各委員から、ご質問等いかがでしょうか。よろしいですか。  
では続いて、令和7年度図書館利用者アンケート結果について、事務局からご説明をお願いします。
- (事務局) ～令和7年度図書館利用者アンケート結果について説明～
- (日野会長) 事務局から、アンケート結果の行政分も含め、お話いただきましたが、各委員の皆様方から、ご質問・感想についてお話をいただければと思います。いかがでしょうか、川又委員をお願いします。
- (川又委員) アンケートを見ますと、『高齢者の利用者が多い』『滞在時間が短い』という印象を受けました。高齢者のために、もっと“ゆとり”ある場所作り、例えば映画に出てくるロッキングチェアでお茶・コーヒーを飲みながらゆっくり本を読み、読み切れないところは借りていくような。また、視線を上げれば市内が一望できる環境・スペースがあれば、もう少し滞在時間が増えたり。以前知り合った人と話ができる、会うことができる機会だと思いたったか。また目的も、少しソフトランディングが、遅れているように感じました。やはりこの目的だと、本を貸し出すのではなく、あくまでも図書館を利用する手段・目的・方法のため、本来の目的という意味では少し違うという感じはします。高齢者・利用する立場の“ゆとり”あるスペースがあればいいと思って。改善の議題の中にもあり、そういったようなものについて、私も思います。
- (日野会長) 閲覧スペースについて、事務局より回答いただけますでしょうか。
- (事務局) 如何ともしがたいところですが、2階の学習参考室について、勉強スペースは、数年前より座席数を少し増やしています。1階について、ご存知の通り、書架が所狭しと置いてあり、何とか少しずつ、席を置いている状況です。
- (川又委員) 高齢者が多いので、高齢者に配慮した椅子があってもいいと思います。
- (日野会長) そうですね。ご意見という形で承ります。長時間にわたって座りやすいという点は重要な点です。  
文化ホールとの連携により椅子が空いていれば、そこも活用できると少しスペースの問題が解消されるかもしれません。ありがとうございました。  
その他いかがでしょうか、浅沼委員をお願いします。
- (浅沼委員) はい、ご報告の中で、図書館にお勤めの職員の方が努力するとできること・そうではないことがあると思います。そうではないことの一つとして、施設設備について、これだけ高齢者の方の利用が多いということ、小さいお子さんと親御さんが利用するということで、先ほどのトイレのお話は、割と気になると思います。この後、説明があるサービスの進捗状況に、施設設備の保守修繕で、やはり図書館トイレの改修工事が通年となっていますが、何か具体的な整備“計画”のようなものは立てていますか。
- (事務局) 前回の会議から比べると、環境も変わりました。非常に荒れていた床面を、今年変えました。また先日、ウォシュレットがついたトイレも、全部ではないですが、一部つけました。さらに、壊れていたブラインドも、全てではないですが、主要なところ、特にお客様の利用があるところを、今変えています。

す。これも最後予算との絡みになりますが、少しずつ快適な利用環境づくりを行っています。

(浅沼委員)  
(事務局)

何か具体的に何年“計画”等がありますか。  
大きい意味での計画について、残念ながら隣の文化センターは現在、中規模改修に入っていますが、図書館は入っていません。要は単年度ごとに修繕予算を取っていくというやり方しかできないため、壊れたら都度直すという対応になります。

(浅沼委員)  
(日野会長)  
(事務局)  
(日野会長)

わかりました、ありがとうございます。  
照明については、館内において大体LED化されましたか。  
はい。  
LEDは結構高いので、全館変更するのは大変だと思います。  
ありがとうございます。

(米元委員)

学校関係ということで、米元委員、何かあればお願いします。  
はい、浅沼委員もおっしゃった、お金をかけなくてはできないもの・“かけなくてもいいもの”。職員の対応について、“お金をかけなくてもできる”部分があったと思います。学校も同じですが、職員1人の言葉遣いが悪かったり、対応が悪いと「四街道小は駄目だね。」となってしまうところですが。これを受けて職員研修や、特定の職員であれば、指導・助言をするなどがあると思います。どのように改善を図ることになっていますか。

(事務局)

はい、直接的に聞く声・アンケート内容、概ね対応についてお褒めの言葉をいただいています。時折、アンケートにもあるようなご指摘いただく場合もありますが、毎日、特にお客様に対する小さなトラブルについては、委託事業者と我々で必ず1日1回報告する機会があります。また月に1回、そのひと月にあったものを共有し、翌月の方針の考え方について共有する場もあります。その際、そのような事案事例についても共有し、改善に向けたやりとりをしています。ただ、委託事業という性質上、我々の方が直接的に指導することができないため、委託事業者の責任者に対し、適切な研修・指導をしていただくような、案内をしています。

(米元委員)

委託なので、中々直接指導ができないところは、学校も同じようなことがあります。ただ、それが巡り巡って上手く伝わらず、改善まで時間がかかり、来る方にとっては、同じ図書館の人なので、その違いもわからず。やはり速やかに改善できるもの、委託事業者と連携していくことが大事かと。来られる方は、施設設備も気になりますが、やはり人っていうのがすごく大事なのかなと。

(日野会長)

実際、委託業者のところでアンケートにも記載がありましたが、少し私語があるとのこと指摘もありましたので、この辺りは注意喚起をお願いしたいと思います。契約も更新されていますが、念のため、注意喚起をお願いしたいと思います。

同じく学校関係で、坂本委員どうでしょうか。

(坂本委員)

アンケートの中に、『イベントがある』『活気がある』との記入があり、みそら小学校で言うと、館長さんが、学校に来てくださり、図書館について説明をしてくださったことにより、子どもたちに、図書館が市の中でどういう役割を果たしているのかということも教えていただきました。子どもたちに「図書館をもっともっといろんな人に知ってもらって、利用して欲しい」

と思う機会になりました。館長さんが来ることで、子どもたちは、図書館に興味を持ちます。また、役割についても、はっきりわからなくてもいいと思いますが、漠然とでもいいので、発達段階の中で、“図書館が果たす役割”というものを感じてくれたのが本当にいい機会だったと思いました。館長さんに時間を割いていただき、全ての学校へは難しいかもしれませんが、子どもたちも「図書館に来てくれる人が、楽しめる何かをやりたい」「お手伝いがしたい」ということで、夏休みのイベントや、今度は冬休みに向けたイベントに少し関わらせていただきます。本当にいい機会だと思います。また、お忙しい中で、学校現場からの身勝手なお願いだと思わず、学校に来て、「図書館のことを知っていますか」という、それだけでも、興味・関心を高めていく機会にもなりますので、また機会を設けていただけるとありがたいなと思います。

(日野会長)

ありがとうございました。

アンケートでもエプロンをつけた館長さんが親しみやすいと好評もありますので、また継続して、各学校へのご支援をいただきたいと思います。

大和久委員いかがですか。

(大和久委員)

はい、アンケートでは70・80代が多く、16歳未満・20代は少ないですが、ここ数年で夏休みの利用等により子どもたち・20・30代の方たちの利用が多くなっているのではないかと思います。このアンケートとは別に、実際に利用状況の人数はどうなのかということが1つ。

次に、地下1階の児童室に関して、アンケートでもたくさん書いてあり、すごく変わってきており、おはなしのへやのフロアマットの変更、本の配列変更により、すごく見通しが良くなった、掲示物がすごく工夫されている。お金がないなかでも、配置で、すごく見やすくなり、利用しやすくなっていることを実感しています。

最後に、アンケートで改善ではありませんが、児童室の17時以降の利用について4件ほどありました。子どもは17時までの利用となっているが、大人の方でも児童室の絵本を読みたい、保育園の子どもとちょっと平日行くのに毎日ではなくても利用できる日があると嬉しいという意見があります。大人の方が児童室の絵本を見ることが可能であるかは、職員体制等により、安全面で少し難しいことなのか、お聞きしたいと思いました。

(事務局)

まず肌感覚といったところでは、非常に子育て世代の利用者が増えている実感があります。中々、アンケートでは、特に忙しい世代なので、そこに至らないですが、非常に“図書館を居心地のいい場所”としてとらえていただいているという実感はすごくあります。また、アンケートが書きづらい小学生や未就学児についても、「本は借りないけど図書館行ってみよう」や、図書館が待ち合わせの場所になったりと、アンケートに反映できてないことが非常に残念ですが、多くの利用者が、素敵な表情を浮かべながら利用する光景を多く目にするようになりました。

児童室について、我々も少し工夫できないかと、中で話し合っています。実際17時以降に、どうしても、児童室を利用したい方に、オフィシャルではなく、利用いただいたケースはあります。ただ、それがオフィシャルなのかそうでないのかで大きな違いがあり、この辺は柔軟に対応している部分があります。例えば、児童室の本を1階に上げて、少しでも見てもらえるよう

な工夫について、今話し合っています。まさに安全管理の面で、全面的に利用可能にするところまでは、すぐには難しいですが、児童室の本ももう少し長い時間見てもらえるような環境づくり・柔軟な対応を含めて、少しでも利用環境の改善に繋がっていくような努力はしていきたいと思っています。

(日野会長) ありがとうございます、他によろしいですか。

読み聞かせの観点から、大塚委員お願いしたいと思います。

(大塚委員) 観点ではないかもしれませんが、ホームページのシステムについて、たくさん本を貸していただいています、うっかり2週間過ぎてしまうと、自分で延長ができないため、わざわざ電話で延長のお願いをしないといけない。いつも忙しいのに、電話対応してくださり、ご迷惑かなと思いつつ。自分で延長するということはできないでしょうか。

(日野会長) いかがですか。ホームページ上のシステムの問題かもしれませんが。

(事務局) システムの会社へ確認します。

(日野会長) 確かに、WEB上で延長申請を行っている図書館もあり、大学も確かそうだったと思います。ただ、次の予約者がいたら当然延長はできません。少しご検討いただきたいと思います。

重田委員いかがでしょうか。

(重田委員) やはりびっくりしたのは、50～70代が圧倒的に多く、それだけ現代社会で孤立に陥っている人が多いのではないかと特に感じます。僕の周辺の下志津でも、ほとんどが老夫婦で片方が亡くなった・2人亡くなった・家がなくなったという。近所のお婆さんたちを見ていると、四街道クラスの近郊都市でも、非常に人間が、さわるどころ、そういうものがなくなり、ドブッと潜り込んでしまう、そういうイメージの人がすごく多いです。これは昔のような共同体が崩れ、中々近所付き合いも深くなく。そういうときに、図書館のような所で、ちょっとしたイベントを立ち上げていくと、ふらっと参加したいという人は結構多いです。四街道で僕は年6回読書会やっていますが、4回が早稲田OB、2回が市民、この前は有吉佐和子さんの恍惚の人、50年前の介護本になります。先週は谷崎潤一郎の名作の吉野葛、こういうタイトルが非常に皆さん興味があるのと、文学の良さを知らせる作品、そういうものを色々読んでいます。来られる大半の方が孤独、やはり何かと接したい、本が好きな人はとことん読み込んでいくわけです。その一つに「先生、谷崎さんのこの本読んだ後、何読んだらいいですか」とか、これ読んでこれ読んでとかね。明治から日本の大きな文学地図を教えたり、こう心がふっと洗われて、「ああ、良かった」みたいな、そういうチャンスが中々無いと思うんです。ですから、今はまだ年6回の四街道市民の会ですが、千葉市や佐倉市からも「重田さんの読書会に、参加したい」という声があります。中々無いです、千葉市あたりも大きいのに。そういう意味で、僕個人とすれば読書会というものを通じて、個別に人間が落ち込んでいく、ドツボに入る前にちょっとしたものに触れていく、そういう手触りは、本が一番手っ取り早い。あとは皆さん、人間と接触して直に話をしたい、自分の意見を発表したい、ここで立体的に広がっています。ちょっとした文学の中の言葉に触れて、もう少しだけ生きてみようか、みたいなことに出会った人と会っていると、よかったねと。そういうところが、現在の、乾いている日本社会の底辺にあるのではないかと。そういう意味で、図書館が頑張っているいろんなイベントを周りに広げているの

- は、お金がなくても、非常にいいことじゃないかと思います。
- (日野会長) やはり、人と人が繋がるコミュニティの場所でもあるというご指摘、非常に重要だと思います。ありがとうございました。
- 次に、富樫委員からお願いしたいと思います。
- (富樫委員) はい、資料を見て、3点ほど思ったことがあります。1点目は、図書館蔵書資料等は割と充実していると思います。私、現役の大学生で卒論に入っていますが、必要な資料を見たい時に下の検索機で探すと、関連するような資料が出ます。大学が遠いため、図書館で見る方が早く、そういう点では助かっています。ただ、アンケートにもあるように、必要な資料、特に専門書に関しては書庫にあることが多いです。私は、見て必要でなければ、申しわけありませんと言って戻しますけれども。アンケートを書かれた方は、非常に気を使われる方で、悪いのでそのまま借りると書かれていました。もう少しその辺が“専門書であっても見やすい状態”になればいいと感じました。
- 2点目は、“図書館は市民の中のプラットフォーム的な役割”をまだ十分果たせていないと感じています。先ほどの重田委員のように、人と人との繋がりということでプラットフォーム化するのであれば、富里市の図書館が、非常に市民の方に開放されています。もちろん箱の問題もありますが、建物も素晴らしく、また飲食ができ、郷土資料館、或いは市民の方の作品展等を公開する場も設けています。富里市は人口が5万に満たないですが、このように市民の方にきちんと、図書館の役割を知らせる努力が見られます。当然ながら飲食ができるスペースもあり、お身体の不自由な方が、飲食を作ってそこで提供するというようなイベントもされています。そういう中で、富里市は非常に人口も少ないですが、皆さんがそこを拠点に、繋がりを持つということもしています。ぜひ、図書館の職員の方・本に関係するお仕事をされている方は、一度富里市の図書館をご覧になられると非常に参考になると思います。
- 最後に、私は最大10冊借りて2週間過ぎそうだと、先ほどのホームページからアクセスし、最大4週間借りるようにしています。まさかその2週間過ぎると自分で延長ができなくなることは知りませんでした。ですので、その辺はシステム上の問題になるかもしれませんが、利便性の面では改善をぜひお願いしたいと思います。また、予約がなく、明らかに利用者が少ないであろうという、蔵書を私借りて、最大4週間で返却し、また借りようとしたら、何日か空けてくださいと言われました。それはどうなのかと、疑問に今思っている部分です。以上です。
- (日野会長) ありがとうございます。
- ご意見も含めて最後のところを確認したいです。4週間のクーリング期間については、規程上定められているのか、その辺を教えてください。
- (事務局) 最初の質問も含めてですね。
- (日野会長) そうですね。回答できれば、この場でお願いしていいですか。難しい場合は、富樫委員へ追って回答するという形で大丈夫ですか。
- (富樫委員) はい。
- (事務局) はい。
- (日野会長) 利用者の方が殺到していないもの、予約が入っていない本の、利活用について、そこは少しご検討いただけますか。

- (事務局) はい。
- (日野会長) ありがとうございます。では、時間の関係もありますので、次に進みたいと思います。先ほどまで委員の皆様方から様々なご意見いただきましたので、そのご意見を踏まえつつ、今後、図書館の運営に活かして参りたいと思います。
- では続いて、令和7年度図書館サービスの進捗状況について、事務局からご説明をお願いします。
- (事務局) ～令和7年度図書館サービスの進捗状況について説明～
- (日野会長) ありがとうございました。
- 令和7年度図書館サービスの進捗状況について、説明してもらいました。大和久委員から、ご意見・感想あればと思います。いかがでしょうか。関わられたお化け屋敷が面白いという意見がありましたが、何かコメントがあれば。
- (大和久委員) 高校生と小学生がやりたいこと、それをサポートする高校生が、コンセプトですが、その中でやはりお化け屋敷は、子どもがやりたいことに必ず上がります。「夜の図書館はどうなっているんだろう」というところから、本当は脅かすことが楽しいと思っていましたが、実際夜の図書館にいただけで怖い。やはり夜に普段は行けないところに行く魅力や、その前に読み聞かせの方たちに、怖いお話をしてもらうことを、高校生たちへ話した際に、それをコンセプトにしたテーマにしたいという方向性がどんどん進みました。金の腕というお話でしたが、その金の腕を、代わりに返して成仏させるみたいなことで、金の腕を持って回ってきてお墓にちゃんと返してくるという形でした。私が思っていたより高校生のアイディアや創造力が素敵で、子どもたちも、この話を聞き“図書館だからこそ”怖いお話と、お化け屋敷が結びつき魅力を伝えられたと感じました。
- (日野会長) ありがとうございます。
- 四谷怪談とか、怖い話を夏に聞くと涼しくなります。
- (大和久委員) ロウソクを準備してくださったとか。
- (事務局) ロウソクに見立てたものを準備しました。
- (大和久委員) それだけでも、もう怖いというか。
- (日野会長) ありがとうございます。
- また、子ども館長プロジェクトということで、坂本委員、何かあれば。
- (坂本委員) はい、先ほど話させていただきましたが、図書館の果たす役割は、時代とともにいろいろ変わり、本質的な部分では変わらないかもしれませんが、ありようというものは変わってきているのかなと。本に親しむところでも、今は、わざわざ、物理的なものを手に取って時間をかけてというより、もしかしたら一つ一つ探さなくても簡単に見たり、わかったりする時代です。ただ、図書館で、物理的な本を使い時間をかけてというところには、やはり何か絶対に大切なものがあります。それは子どもが経験しないと、1回そこを知らない、と、「図書館があるな」「図書館に1回行けば何かわかるかもしれない」という発想に行きつかないと思います。だからこと、図書館へ興味を持つ機会を小さいときに作っていただき、本当にありがたいと思います。先ほど話はしましたが、小学校でお話会、ボランティアの読み聞かせもしていただきました。もしかしたら、昔、どこの家庭でも行われていたようなものが、

無くなりつつあるではないかと、小学校現場としては感じています。読み聞かせをしていただくと、子どもはそのお話の世界に引き込まれていき、その中で、時間かけて静かに考えるという、その経験はやはり尊いものなので、そういう意味でもありがたいなと。『読書活動を推進するまち、四街道』このような活動が、子どもたちを育てていくことに繋がっていると感じます。

(日野会長)

はい、ありがとうございました。

その他、委員の皆様方からご意見・ご感想ございますか。

(富樫委員)

ソーイン部ですが、入口のところに端切れがあり、一体何なのかなと思っていました。実際の活動を知り、素晴らしいなと思いました。もうちょっとそれを発信していただけたら、いろんな形で目立つようにしていただけたらうれしいなと思います。次回の日程は決まっていますか。

(事務局)

来週の27・30日を予定しています。月2回、平日1回、休日1回という感じですよ。

(富樫委員)

いいですね。これは多様な年代の方がいらして、お話ができると思います。ヨーロッパ・アメリカでは皆さんそういうコミュニティで手を動かしながらおしゃべりするのが楽しいというのがあるみたいなので、すごくいいと思います。

(事務局)

ソーイン部は、手は動かさず口だけになったり。ただそれも、人との繋がりという意味では、大きな場になっていると思います。

(富樫委員)

そうだと思います。イベントを見ると、やはりお子さんとか若年層向けのイベントが多いので、高齢者も積極的に参加できるようなイベントをあわせて考えていただけると嬉しいかなと。自分も高齢者になってきているので、すごく思います。

また、先ほど大和久委員さんからお話があった夜の図書館のイメージ、すごい目からウロコでした。映画でナイトミュージアムという夜の美術館や博物館の映画があります。それを何か定期的に図書館でやっていただけたら面白いのではないかと思います。

(日野会長)

はい、ありがとうございます。

イベントも前回は、健康寿命と写真というテーマで企画され、それぞれの世代ごとに企画されており、非常に評価できると思います。

(富樫委員)

素晴らしいと思います。

(事務局)

24日に『読書と、小さな演奏会』というピアニスト・バイオリニストさんが読書のバックミュージックとして演奏していただいて、そこで読書に浸るイベントを企画しており、13時～15時を予定しています。

(富樫委員)

すばらしい取り組みだと思います。

## 8. 閉会

(日野会長)

では、非常に長時間にわたりまして委員の皆様方には慎重なご審議ありがとうございました。それでは以上で令和7年度図書館協議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。